

住まいと暮らしのデザインブック WWW.SUMAI-NIIGATA.NET

住まいnet+新潟

vol.35

SPRING & SUMMER 2023

550yen

特集

ほどいい、
住まいと暮らし

誌上で完成見学会

新潟の住宅実例集

住まいづくりのアイデアを探して

素材が生きる建築

読者プレゼント!

資料請求された方々に多数プレゼントをご用意しております

SUMAIZUKURI
DESIGN
CENTER

SDC
NIIGATA

CONTENTS

特集 ライフスタイル提案

010 ほどいい、住まいと暮らし

誌上で完成見学会

041 新潟の住宅実例集

042 株式会社ユーホームズ

048 株式会社稲垣建築事務所

054 ブラウム建築設計事務所

060 株式会社ITO建築設計事務所

066 T's home / 津野建設株式会社

072 BANhome / 株式会社藤真工業

078 有限会社大恭建興

084 roomz 株式会社星野建築事務所

090 アーキレーベル / 株式会社鈴木組

096 Paddy Field TAGAMI / 有限会社ダイワホームズ

102 キズナハウジング / 株式会社小池

108 オーガニックスタジオ新潟株式会社

114 ダイケンアーキテクト / 株式会社大建設

120 k.design house / 株式会社桐生建設

126 ディテールホーム / 坂井建設株式会社

132 和ごころ工房 / 大栄建設株式会社

143 ビルダーレポート

144 zenken / 株式会社全建

150 デジモ? / 株式会社モリタ装芸

154 株式会社瀬賀工務店

158 株式会社カタチ創庫

160 グリーンスタイル / ダイエープロビス株式会社

162 LOCAL LIFE STANDARD / 株式会社池田組

164 株式会社Ploot

特集 住まいづくりのアイデアを探して

170 素材が生きる建築

特集 お家で住まいを見学

203 全国百選と地元実例 月刊スマホの展示場

229 ビルダーズモア

260 ものの生まれるところへ
住まいNET新潟読者プレゼント

267 資料請求方法



Vol.35
SPRING & SUMMER 2023

Cover Story

家々に明かりが灯ると、気配がこぼれ出る。「どんな暮らしをしているのだろう」。想像しつつ、家路を帰ると、住んでいる町が、家が、いつもの明かりで迎えてくれる。「家に帰ればほどよい」と歌いたくなる風景。

新潟市中央区 後藤邸

Photograph: Isamu Murai



大屋根の広がる
塗り壁と天然木の家

高い断熱性・気密性を兼ね備えた「HEAT20・G3」基準
断熱等性能等級7の次世代フラッグシップハウス

凍えるような寒い冬や、熱気がこもる暑い夏でも快適に。
現在上昇中の光熱費を抑え、家族みんなが健康に豊かに暮らしていける住まいをご提案します。
私たちの手掛ける建物の未来がここにあります。ぜひ来場の上でご体感ください。

モデルハウスの詳細、
見学予約はこちらから



株式会社ユースフルハウス yousefulhouse.com
新潟中央スタジオ / 新潟市中央区網川原1-17-7 フリーダイヤル 0120-315-781 燕三条スタジオ / 燕市井土巻3-30 (イオン県央隣り) TEL 0256-46-8022

Instagram 配信中



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード
500円分をプレゼント。※詳細は267ページをご覧ください。
スマートフォンからでも資料請求できます。

歩き慣れた道。
見慣れた風景。

ふと視線を落とすと、
季節が見えた。

長い影。
春になったら、短くなるのだろう。
夏になれば、緑陰になるのだろう。
道端で頼りなげな草も
これから、ぐんぐん逞しくなる。

風がやわらかくなったら、
水がゆるんだら、
外に出てみよう。

歩きなれた道に、
見慣れた風景に、
発見があるから。

もう一步、先にと、歩きたくなるから。
季節と足を揃えて、歩いて行こう。

『住まいnet新潟』編集部一同

住み慣れた町
足元にも季節

ビルダーの探し方も、何から始めればいいのかも分からない。「こんな時、相談できる場所があればいいのに」って思っていたんです

相談者 長岡市 I 夫妻

Client



「思いどおりの家」を 建てたいなら

あなたにぴったりの住宅会社を紹介します。



「何も分からなかった時に、どう進んだらいいのかを導いてくれた」

住まいnet新潟 LOUNGE

長岡市、東山連峰のふもと緑の中。インテリ
アショップS・H・S長岡店の一角に「住まいNET
新潟ラウンジ」はある。家を建てたい人と、地元
の住宅会社をマッチングするこの場所に、I夫妻
はお子さんを連れて訪れた。アパートの更新のタ
イミングで、かねてから思っていた家づくりに踏
み出そうとしていた。

「ただ、何から始めていいのか分からなくて。い
ろいろ聞いたり相談したりするところがあるとい
いなと思うていたんです」。少し前、新潟市鳥
屋野にあるS・H・Sを訪れた際、ラウンジを見
かけた。「もしかすると、長岡店にもあるんじや
ない?」。雑誌「住まいnet新潟」で確認して、
アポイントを入れた。

訪れると、アドバイザーがいろいろと聞いてく

れた。土地のこと。予算のこと。そして大手ハウ
スメーカーのモデルハウスは見たかどうか。「注
文住宅にしたいと思っていました。でもネットな
どで調べると、ハウスメーカーは高くて。あと、ア
フターメンテナンスを考えると地元のビルダー
がいいのかなと」。二人の話を聞いて、アドバイ
ザーは候補を絞ってカタログを渡した。2回目
の面談までに、二人は土地の希望エリアを決
め、カタログの中から2社ほどに絞った。いずれ
も、ナチュラルな中にもアイアンを効果的に組み
合わせたモダンなスタイルを提案している会社
だった。「ビルダーに土地を探してもらえること
もありますから、まずは2社に会いに行ってみ
てくださいか?」。アポイントを入れてもらい、2
社と面談。その後も数回、足を運んでじっくり

社と面談。その後も数回、足を運んでじっくり

話を聞いた。

「いきなり、ビルダーに連絡を入れるのも気が
引けましたし、何を質問すればいいかも分から
なかつたので、ワンクッション置けたこと、そして
何を聞くといいかも教えてもらって助かりまし
た」。I夫妻は時間をかけて決め、土地も仲介し
てもらって家づくりを始めた。

「まずはお話して、どういうことに悩んでいる
か、聞かせていただいています」とアドバイザーの
小船井みかさん。家族によつて違う悩みを解き
ほぐし、その後一層に候補のビルダーを考えて
いくという。「一番不安な最初の段階で、背中を
押して差し上げることができれば」。先に進め
ず立ち止まっていたI夫妻に、アドバイザーがガ
イド役になって、ビルダーとの橋渡しをした。

どんなことに悩んでいるのか、聞くこ
とから始めています。ビルダー探し
はそれから一緒に

アドバイザー 小船井 みか

Adviser



住まいnet新潟

特集

ほどいい、

住まいと暮らし

撮影 村井勇

広さは、絶対的な価値だろうか？

広がりも、高さも、開放感も、つまるところ、人それぞれ。そう教えてくれた、4つの住まいがある。

自分にとって「ほどよい」住まいって何だろう。

問いかけた先に、ほどよい暮らしが生まれる。



House and living, just right for you

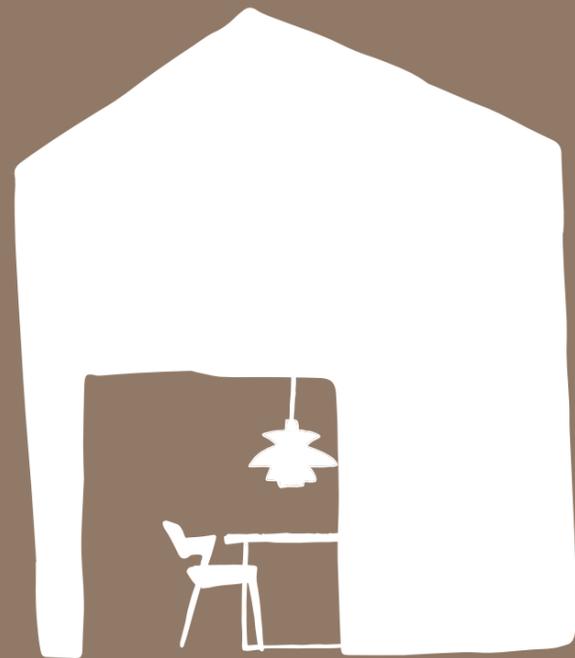
リビングからダイニングキッチンを見る。その先には高台からの眺め。「毎日、何を見て暮らしたいか」と考えて選んだ土地。ごく一般的な掃き出し窓だが、眺めが、暮らしの大切な部分だ



ほどいい、住まいと暮らし

大らかに区切って
あるがままを
生かして

新潟市中央区 後藤邸



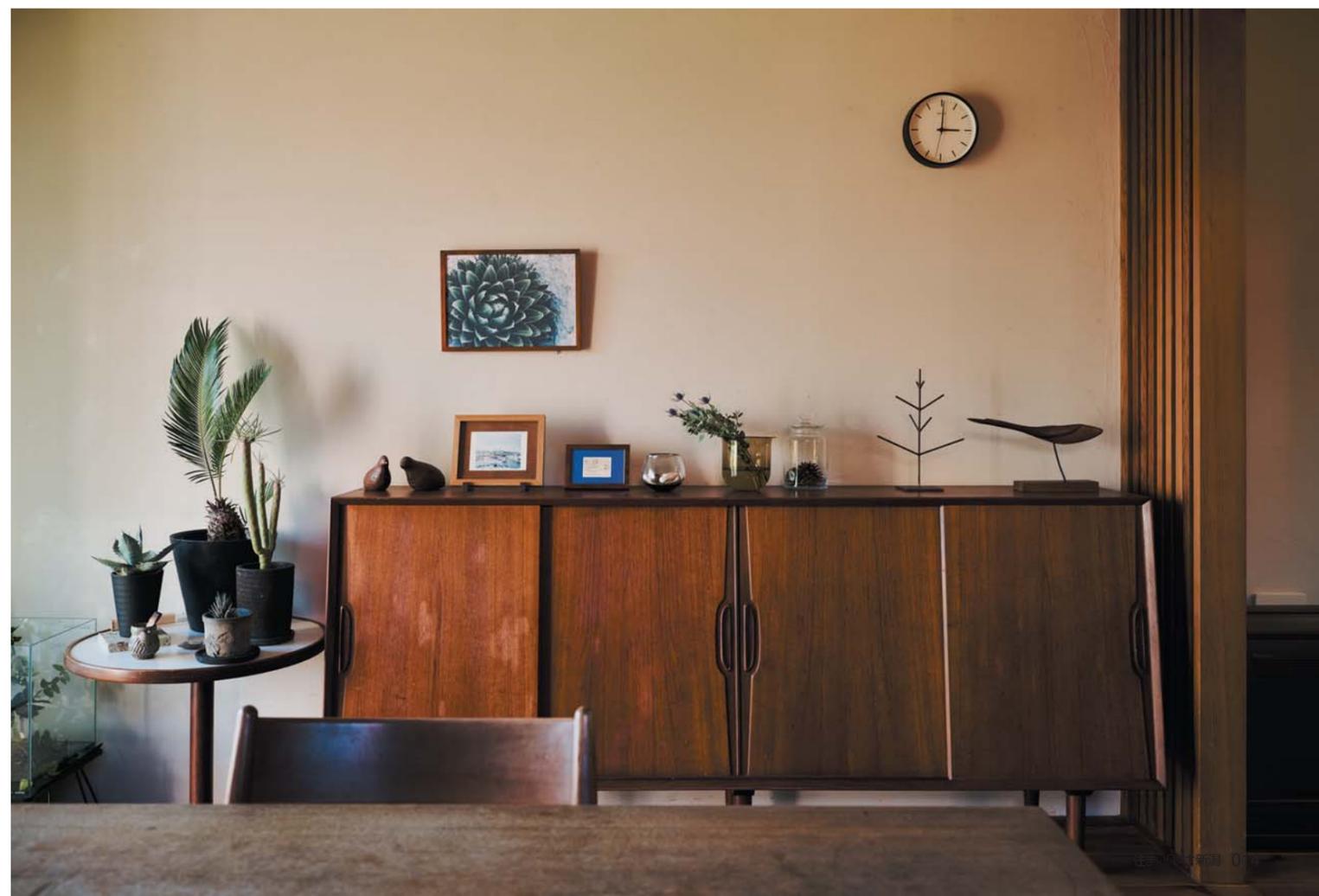
少し高台になった、神社の脇。
「この景色は、借りられない」。
ロケーションありきで、クセ地を手に入れた。
やりすぎない、造り込まない。
ほどよく抑えた設計が
眺めを引き立て、暮らしを支える。
そして大きく守る。傍に立つ松の木のように。



右/リビングの片隅は、一人に籠れる場所。ダイニングとの間に、2分の1ほどの壁を設けたことで、小部屋のような一角が生まれた 左/玄関ホールからリビングまでの廊下は、片面が全てクローゼットに



上/キッチンには壁に面して、合板を扉にして造作。横長の窓には神社の縁が切り取られている 下/「できるだけ手を加えないで、家具で調整した」設計。ダイニングには北欧の古いキャビネットが置かれ、写真や絵、オブジェが飾られている。「やりすぎない」設計が、もの一つひとつを引き立てている



ほどよく抑えた設計で、 眺めと暮らしが鮮やかに

石の階段を上って神社へ。鳥居の傍に、木の壁の建物がある。大きな松の木が覆い被さり、守られているかのよう。「ここ、家?」。雑木林の中、小道を行くと玄関に至った。ガラスから漏れる明かりに、しっかり家の匂いがした。

歩いてしか辿り着けない住まい。しかし、リビングに入ると、ここぞしか得られない価値が現れる。掃き出し窓の先に庭の木々、その先に家々。「近くに車が停められないと不便だろうと思ったんですが、『駐車場はいくらでも借りられるけれど、景色は借りられない』と言われて、確かにそうだな」と。こう振り返るのは奥さま。実際、この眺めと庭に張り出すデッキは、暮らすほどに、欠かせない暮らしの一部になっていった。休みの日には、眺めを楽しみつつ、明るいうちから、ワインとおつまみ。夏は、デッキにタープを張って、家族みんなで焼肉。ただ、椅子に座って外を向くだけでもいい。野鳥

が来る、雪が積もる。気がつけば、「寝る時以外はほとんどダイニングにいる」毎日になった。

「ほどよき」は、そんな暮らしと眺めを引き立てるための、抑えた設計にある。「張り切ってデザインしないようにした」と自邸を設計した後藤尚樹さん。細長い箱を単純に区切り、木や漆喰の素材感をそのまま出して、シンプルに。細やかさを突き詰めない、ざくっとした大らかな造りが、眺めを主役にし、暮らしの背景となって静かに控える。室内に、仕切りがないように、外と内も境界も実にゆるやか。土間、デッキ。開けた雰囲気にお子さんの友だちは、玄関を通り過ぎて、庭から呼びに来るといふ。帰り際、松を見上げて、海に近いことを思い出した。1本の松の木は、砂丘の松林の名残なのだろう。風から土地を守るように、この家も、大らかに家族と暮らしを守っている。

理想の暮らしを、高性能とデザインで実現

山を望み、田園に囲まれた一軒家。高性能という確かなベースにパッシブデザインとH夫妻好みのテイストを乗せている。材料や間取りでコストをコントロールした工夫も、興味深い。



「やっぱり、家は建てたかった」。そう話す奥さまの隣で、「好きなように建てさせてあげたかった」と続けるご主人。「好きなように」とご主人が発したのは、奥さまが家づくりに関わる仕事をしてきたからだ。この自宅もご自身で設計。当時は、南魚沼市に拠点を置くユーホームズに在籍し、リフォームやインテリアデザインを主に担当していた。そして今、インテリアコーディネートの業務を同社から請け負いつつ、自宅の一角にインテリアのセレクトショップも開いている。「ユーホームズの特徴は、高密度・高断熱をベースに、パッシブデザインを組み合わせるといったもの。性能を確実にする施工はお任せし、設計では、環境や太陽に素直にならいました」と奥さま。上村雄大社長によれば「特に雪国では、パッシブデザインを生かすためにも、

高性能が前提」で、H邸でも、目的を熟知した自社大工の施工で、性能を確かにしたという。

土地は、南北に伸びる縦長。幅は決して広くないが、奥さまの目には理想的に映ったという。「景色のいい南側は空いていたので、プラン次第で『良くなる』と思えました」。導かれたのは、南に大きな開口部を設けて開き、東西には閉じる形。東西に渡る外壁には深い軒を出し、両側に袖壁を設け、日差しをカットしている。「吹き抜けがありつつコンパクトに」。H家の夢の住まいは、奥さまの基本設計に、ユーホームズの性能設計を重ねて、生まれた。

南魚沼市 H邸 | 木造軸組工法 | 工期120日 | フリープラン

坂戸山を望み、田園の中に建つH邸。片流れの屋根の下、深い軒と袖壁で日差しをコントロールしている。大きなカーブが特徴の外壁は、ガルバリウム丸波を採用。左手のガラスの空間は、奥さまが開いたインテリアのセレクトショップ「j. interior shop」

玄関を入ると、まっすぐに抜ける視線。この眺めを取り込むための大きな窓は、断熱性能と南西向きという方角を考慮し、トリプルガラスを採用。冬は薪ストーブとサーキュレーターで、仕切りのない家が隅々まで暖かい。二人の古民家への憧れを聞いて、梁と天井をあらわしにしている

梁、天井、床。木材は眺めを生かすフレーム

格子を開けると、正面に古い簞笥、壁には絵画。「二人の好きな世界が、ここから始まっている。室内に入ると、旅先で滞在先で集めてきたものたちが、そこそこに置かれていて、「眺めて楽しみたいものもあるけれど、使えるものは使いたい」。シンガポールで買った重厚なチークのソファはLDKの真ん中に、古いランクはローテーブルに。ソファの後ろにはロンドンで買ったビリヤード台。古い階段簞笥は「そのまま階段に」と要望し、空間の中央で、1階と屋根裏のロフトをつないでいる。

「平屋にしたいけれど、吹き抜けも捨てがたい」。そんなご主人の話聞いて、伊藤さんは、この構成を提案した。片流れの屋根、その傾斜を生かして、屋根裏の空間を部屋に。メインの生活空間である1階と、吹き抜けでつながる形だ。壁は一面をすべて窓にし、まっすぐ景色に向かい合う。「二人が「最も大切にしたい」眺めが、大きく広がっている。

二人が「さすがプロ」と思ったのは、動線と間取りだったという。「よく私たちの気持ちを読み取ってくれました」と奥さまが言えは「ファーストプランでいい家になると確信した」とご主人。キッチン裏のパントリーは、ガレージと行き来でき、トイレ、洗面スペース、クローゼットは、キッチンのそばに「直線にまとめられている。お風呂に入っている時も景色を眺めたい」と、浴室はユニットではなくバスタブのように現場に通った。木工事、壁の喰塗り。「フェイクが嫌で、塗り壁にしたかった。初めは、自分たちで思ったんですが、光が当たるときれいじゃなくて、お任せしました。階段簞笥はステップを増やして高さを揃えてもらい、古い建具は、塗り直してもらった。二人は「宮崎さん」「佐藤さん」と職人を名前呼び、「ここで暮らし始めた今も「あの柱は、壁を塗ったのは」と思い出し、感謝しながら過ごしているという。

ご主人は、家づくりをアートに例えた。「設計は伊藤さんの作品。その上に、大工さんたち職人の作品が加わった。最後は、私たちの暮らしが重なって一つの作品になる」。取材後、ヨーロッパへと向かった二人。旅と旅の間にある「住まい」は、奥さま曰く「家というより、ペーパース。」として、「二人を受け止め、時とともに味わい深い作品となっていくのだろう。」



上/1階のデッキは、柱だけで構成されたピロティに、両世帯のリビングが庭に面するよう設計。下/木と天然石がモダンに溶け合うアプローチ。天井に張った木は、そのまま玄関ホールや、右手の門扉の先のテラスにも続いている。スチールの門扉はテラスと庭につながる

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 敷地面積/711.86㎡(215.33坪) | 内装材/ビニールクロス |
| 延床面積/535.13㎡(161.55坪) | 床材/チーク複合フローリング |
| 1階面積/339.20㎡(102.40坪) | 開口部/断熱サッシ |
| 2階面積/195.93㎡(59.15坪) | キッチン/TOYOキッチン、造作キッチン |
| 工法/SE構法 | バスルーム/Panasonic |
| 基礎/SE構法基礎 | その他/耐震等級3、長期優良住宅、完成保証制度 |
| 断熱材/外張り+充填断熱 | 竣工年月/2022年5月 |
| 屋根材/ガルバリウム鋼板 | 家族構成/祖母+両親+夫婦+子ども |
| 外装材/サイディング上塗装仕上げ | |

roomz / 株式会社星野建築事務所

〒950-0948 新潟市中央区女池南3-5-1 Tel 025-281-1599 Fax 025-281-1598
 詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

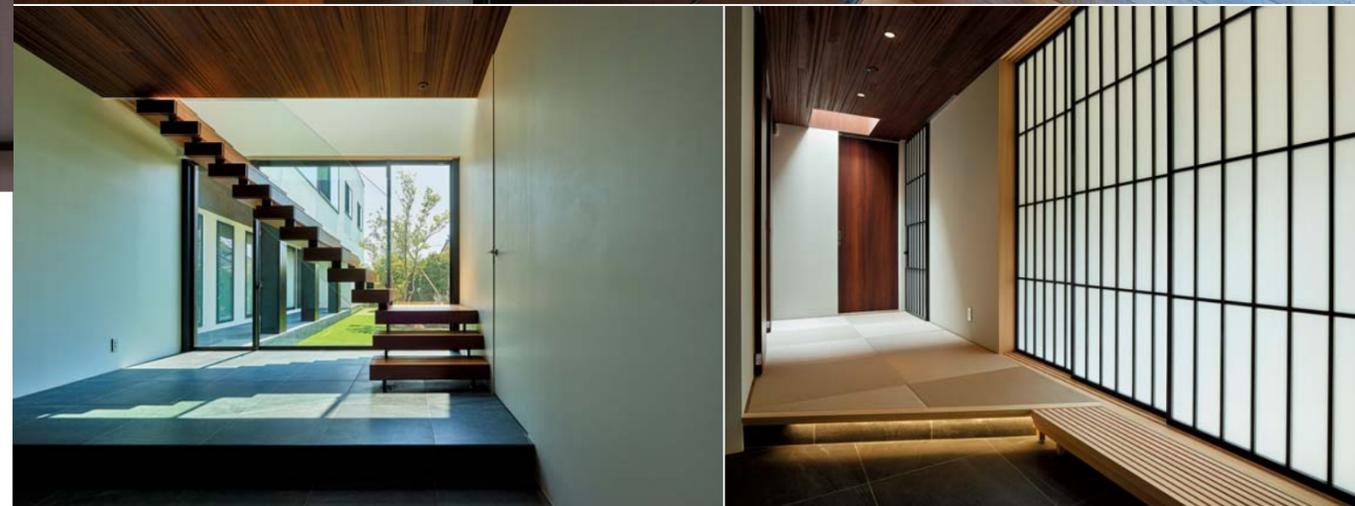
08 資料請求番号




資料請求をいただいた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。
 ※詳細は267ページをご覧ください。
 スマートフォンからでも資料請求できます。



上/子世帯のドレスルームはブティックのよう。ホテルのスイートルームをイメージして寝室とつながっている。下左/外に面したトイレ。正面には天井まで天然石を張って下右/1階の廊下には、天窓が数カ所設けられ、ところどころに陽だまりが生まれている



上/1階親世帯のLDKは、タイルのテラスを介して外とつながり、大きな開放感に包まれる。レジフィードはテーブル上での調理も考え、キッチンとダイニングに渡る大型を採用。中右/玄関を入るとこの風景。格子と畳という和の世界も、モダンをベースにすることで全体と溶け合っている。中左/子世帯の玄関ホールは正面に庭。吹き抜けに蹴上げあげのない階段が映える。下/中央にアプローチ、両側にインナーラージを抱えた外観。2階部分は奥に配し、上部のポリウムを抑えることで、水平ラインが際立つ



右／玄関ドアを開けるとこの風景。薪ストーブ、バイクなどが置かれた吹き抜けの土間は、来訪者をみな驚かせ、うらやましがる。 中上／家族の集まるダイニングを住まいの中心に。手前のL字型のキッチンが造作。正面、2階部分はリビングに 中下／3階は子ども部屋と寝室。右の吹き抜けによって下階とつながっている 左上右／青みがかった白「カタチホワイト」でまとめた外観。3階部分が潜水艦の潜望鏡のように伸びている 左上左／中2階にあるダイニングの外には「ソトイマ」としてのデッキ 左下／2階には「ヌック」としての造作ソファを設置。書斎スペースなどの造作や家具はカタチ創庫オリジナルの「サビカラー」で統一



S邸
新潟市中央区
木造軸組工法
工期120日
フリープラン

「使いこなしたくなる」余白のある家を提案

色ではカタチホワイト、サビカラー。装置としては土間、ソトイマ、ヌック。カタチ創庫のアイコンを、随所に配したスキップフロアの住まいはアイデアの一つひとつが「余白」となって、「住みこなしたい」気持ちを生んでいる。

「家族一人ひとりが、楽しく過ごせる家になりたい」。S夫妻は、ワクワクを求めていた。カタチ創庫を選んだのは、まず楽しい家になりそうだったこと、そして「自分たちにかスタマイズしたい」という気持ちに一番、フィットしたからだという。代表の織田島崇さんはその場でスケッチを描き、「こうもできる、ああもできる」といろいろな可能性を示した。「契約まで時間もかかったのに、じっくり付き合ってくれた」。そんなやりとりの中で提案されたのが、例えば1階の土間、「ソトイマ」としてのデッキ、スキップフロア。「敷地がコンパクトだったことから3階建てになりましたが、考え方としてはワンフロア。仲の良い家族の家と考えたら、自然とスキップフロアが導かれた」と言う。今、S家の暮らしは、意図された通り、2階のダイニングキッチンを中心に、家族が好

きなところで好きなことをしつつも、お互いの気配が感じられる。「子どもたちは、どのフロアにも秘密基地があるんです」と奥さま。特に上のお子さんが気に入っているのは、2階、薪ストーブの暖気を通すために設けられた格子のスペース。ぬいぐるみや毛布が持ち込まれて「巣」のようになっている。家族と住まいが肌を合わせるような感覚は、カタチ創庫オリジナルのサビカラーやカタチホワイト、ダイニングキッチンを中心にした間取りにも落とされいている。「でも、まだまだ、私たちはこの家を使いこなせていないと思う」。S家族は楽しく、賑やかに、この家を育てていくのだろう。

株式会社カタチ創庫

〒950-0143 新潟市江南区元町3-3-16
Tel 025-383-6817 Fax 025-383-6818
詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

20 資料請求番号

資料請求をしていただいた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。
※詳細は267ページをご覧ください。
スマートフォンからも資料請求できます。



階段を上ると、オープンスペース。こちらも、無垢の木をふんだんに使っている。床はサクラ。梁などの骨格は力強く、正面の格子戸のような建具は繊細に、木を加工している



上／招き屋根によって生まれる高さを生かして、一部吹き抜けになったLDK。木の香りがするのは、「圧倒的な量の木を使っていることも理由の一つ」と瀬賀社長。またリビングスペースはあえて腰板を張らず、広がり表現。左／ダイニングテーブルはイチヨウ、ベンチはモミジで造作。奥には小さなスタディーコーナーを設けている。右／玄関のそば、廊下の脇に手洗いスペースを設置。右下／挂藻土の塗り壁は刷毛目を生かして



左／家族用の玄関そばに設けられたウォークインクローゼット。玄関とキッチンの双方につながっていて、動線がいい。中／2階、屋根の傾斜を生かした勾配天井の個室。壁際にはカウンターを造り付け、机としても使えるように。右／1階に設けられた寝室。木の腰壁にして、落ち着いた雰囲気

株式会社瀬賀工務店

〒950-0852 新潟市東区石山5-5-30 Tel 025-277-5158 Fax 025-277-5186

詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

19

資料請求番号



資料請求をしていただいた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。
※詳細は267ページをご覧ください。
スマートフォンからでも資料請求できます。

特集 住まいづくりの
アイデアを探して

素材が 生きる 建築

なぜ、その素材なのか。
それであれば、という理由は何か。
建築の成り立ちと素材を探った今回の特集。
図らずも、すべての建築に
「自然」との関わりがあった。
環境としての自然、礎としての自然、
あるいは四季。
私たちが自然の中にあるように
建築もいつも、自然の中にある。

撮影 松崎典樹

吹き抜けになった室内。2階に立つと、1階に蒸留器。3階の天井に鏡面板と、周囲を映し込む素材が同時に見える。階層をつなぐ階段や手すりはスチール。再び1階の床を見ると、光る素材が土に降り立ったかのよう



角の4点で大地に立つかのように見えるRCの建築。アンカーのような4点は、積層する花壇の上に。植えた薬草やハーブが繁茂すれば、点は緑に埋もれる。入り口は、正面のアーチの中に。共同設計は嶋田貴之さん

Simple Life シンプルとは、凝縮する事

K.DESIGN HOUSE

EXAMPLE REPORT PAGE 120



k.design house / 株式会社桐生建設

[NIIGATA office] 〒950-0954 新潟市中央区美咲町1-8-15 ホボロ美咲町1F
Tel 025-378-6120 Fax 025-378-6122
[TAINAI office] 〒959-2618 胎内市高野765-3
Tel 0254-43-5475 Fax 0254-43-5479



桐生和典

1976年胎内市生まれ、一級建築士。設計事務所を経て桐生建設に入社。デザインプロジェクト「k.design house」を開始。2018年グッドデザイン賞、ASIA DESIGN PRIZE 2022等国内外受賞多数。

資料請求番号 14

スマートフォンからでも資料請求できます。



代表者 / 桐生利秋
創業 / 1969年
資本金 / 2,000万円
従業員 / 17名

事業内容 / 建築設計・施工、宅地建物取引業
取扱工法 / 木造軸組工法
有資格者 / 一級建築士 1名、二級建築士 7名、宅地建物取引士 1名
免許番号 / 建設業許可 新潟県知事(般-2)第21743号、一級建築士事務所 新潟県知事(ホ)第3847号
宅地建物取引業 新潟県知事(4)第4487号
加盟取組保険 / 株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱い坪単価 ※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。					
40万円未満	40~50万円未満	50~60万円未満	60~70万円未満	70~80万円未満	80万円以上
取扱いエリア					
全県	下越	中越	上越		
住宅性能					
長期優良住宅対応	ZEH対応				

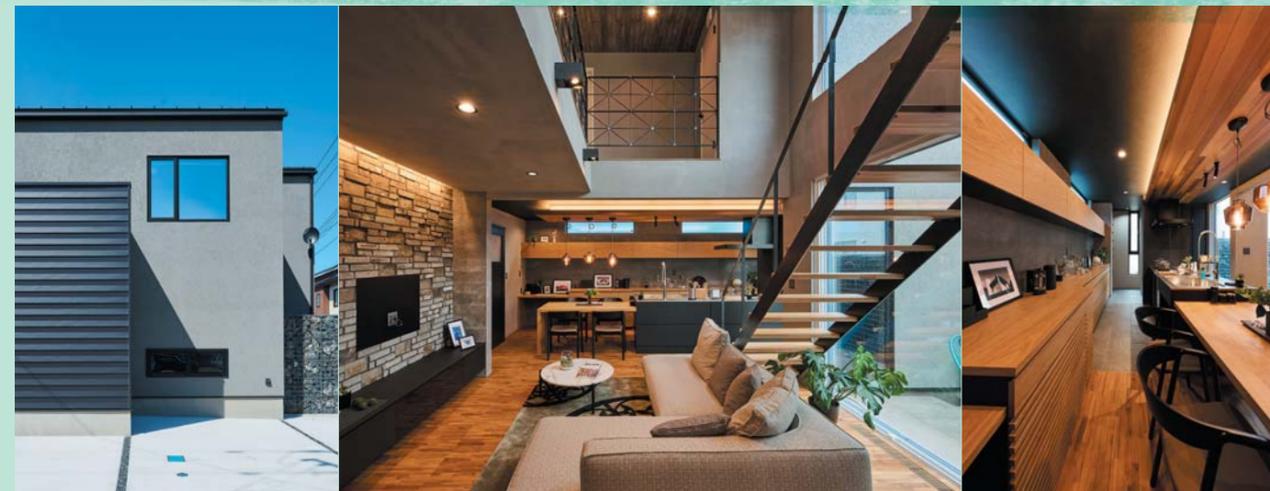


www.kiryukensetsu.jp

立地を生かした高性能な家に インダストリアルをプラス

DAIKEN ARCHITECTS

EXAMPLE REPORT PAGE 114



ダイケンアーキテクト / 株式会社大建建設

[浜谷町本店] 〒950-0034 新潟市東区浜谷町1-2-6
フリーダイヤル 0800-800-7433 Fax 025-288-6150
[河渡スタジオ] 〒950-0024 新潟市東区河渡2-2-12
Tel 025-271-6366 Fax 025-271-7307
[坂井東スタジオ] 〒950-2041 新潟市西区坂井東1-13-1
Tel 025-232-1166 Fax 025-232-1203



高橋尚久

二級建築士・取締役部長。設計士としてお客様一人ひとりのライフスタイルやお好みをも「暮らし方」に焦点をあて提案。大規模リノベーションやリノベーションの経験も豊富で、様々な視点からの住まいの提案を得意とする。

資料請求番号 13

スマートフォンからでも資料請求できます。



代表者 / 高橋秀彰
創業 / 1968年
資本金 / 3,000万円
従業員 / 40名

事業内容 / 住宅事業(新築、リノベーション、リフォーム、不動産)、土木事業(公共、建築、他)
取扱工法 / 木造軸組工法
有資格者 / 一級建築士 2名、二級建築士 7名、宅地建物取引士 5名、一級建築大工技能士 2名
免許番号 / 建設業許可 新潟県知事(特-3)第2630号、一級建築士事務所 新潟県知事(二)第4333号
宅地建物取引業 新潟県知事(2)第5167号
加盟取組保険 / 株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱い坪単価 ※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。					
40万円未満	40~50万円未満	50~60万円未満	60~70万円未満	70~80万円未満	80万円以上
取扱いエリア					
全県	下越	中越	上越		
住宅性能					
長期優良住宅対応	ZEH対応				



www.daiken-architects.com



右頁・上/シャベルの形をした「スコップ」シリーズ 下/ダメージ加工の後、ステンレスを黒染めした「BLACK VINTAGE INOX」のカトラリー「バゲットクラシック」シリーズ。「VINTAGE INOX」「BLACK VINTAGE INOX」いずれも製造特許取得 上/バレル研磨機から取り出すと、小さな傷が付き、鈍いこの表情に

金属食器の 価値観を変えた

VINTAGE
INOX

使い込まれたアンティークのような風合い。ステンレスでありながら温もりさえ感じさせるシリーズは、2014年に生まれた。「特に海外の見本市では、新品であったとしても、ピカピカの食器は素通りされてしまう。じゃあ、逆の発想で磨かずに汚したらどうだろうと思ったんです」。発案したのは青芳の代表、青柳修次さんだった。アンティーク食器は、安定した人気があった。食器以外でも、古く見せたものが好まれていた。例えばジーンズ。「ジーンズのようなダメージ加工ができないか」。ただ、同じ金属でも、銀や銅、真鍮とは違ってステンレスは硬く、風合いが出しにくい。そこで思いついたのが、ジーンズにも使われるストーンウォッシュ加工。研磨石を入れてバレルで回し、摩擦によって傷を付けるという方法だ。研磨石を変えたり、時間を変えたり。試行錯誤の末、製造の目処がついたが、しかし、社内の評判は今ひとつだった。首を傾げる営業部。「当然ですよ。ざっと、磨くのが一番、という価値観でやってきたんですから」。試しに、パリで行われた小さな内見会に出した。手応えを感じ、翌年は世界最大級のインテリア見本市、メゾン・エ・オブジェに出展。すると行列ができた。それは、ステンレスのもう一つの価値観が生まれた瞬間でもあった。



ものの生まれるところへ

— 光沢より鈍さ。

ダメージ加工の

ステンレス食器

これがステンレス？

光沢もなければ

金属特有の冷ややかさもない。

逆を張って生まれたシリーズは

ステンレス食器の世界に

新しい風を吹かせている。

撮影/渡邊久男

青芳
VINTAGE
INOX

